

ちよつとしい話

～ 社会に潜む色 ～

22年10月1日

ご存知のように色には三原色、赤、青、黄色があり、三つの色から様々な色合いを作り出します。我々の日常生活には色にまつわる話が色々あります。怒りを堪えれずに爆発させるのは人間として如何に自分が小さく、**雅量の無さを表すものであり未熟者と言う事です**。故に、人間怒りは厳禁ですが怒りの度合いに応じて、赤くなったり、青くなったりします。佛様で忿怒の形相をして我々の守護をして下さいますのが赤不動、青不動尊でございます。仏教での五色は青・黄・赤・白・黒です。私達がこの五色を使用する儀式を目にするのは御開帳佛の御縁日法要です。ご本尊様と法縁を結んで頂く為に五色の善の綱が使われています。現在は白、黒の変わりにだいたい緑、紫が使われています。白黒と言いますと、何と言っても経済です。経済状況は日本の國も、家庭も、会社も同じですが収入よりも支出が増えれば赤字となり、反対に支出が少なければ黒字となります。國の赤字も国民が支えている間はまだ安心ですが他国から高金利で借金をする様に成ればギリシヤの二の舞です。無い袖は振れません。

白は清浄無垢の色であり、神社仏閣に詣でお供えする時には白い紙を敷きます。この作法は心から御供物を献上します、と言う誠意を示す形なのです。花嫁の白無垢は勿論清浄無垢を現し身に付けるもの全て白で統一します。これは嫁ぐ先の家風に染まりますと言う意味です。現在の花嫁、上は白でも下着の色は色違いでは無かろうか。我々が亡くなった時も、罪、咎は無いですよ宜しく御願ひしますと白の帷子に身を包みます。青はまだ若い、未熟を意味し、青二才と言うも、反対に先人に勝る様に成れば、「青は藍より出でて藍より青し」と表現されます。

まったく面識の無い方を赤の他人と言いますが世の中、常に初対面から縁を頂くのです。面識無く産まれて来ると思われているのが赤ん坊です。しかし、**赤ん坊は十月十日の間、母親の胎内にあって、臍の緒でしっかりと結ばれているのです。臍の緒を通して累々と続く先祖からの血統を祖母が受け継ぎ、祖母から母親を通して、産まれてくる赤ん坊が間違いなく血統を受け継いで来るのです。血は水よりも濃し、と言われ血統が重んじられる所以です。**ですから臍は人間にとって一番大切なものです。どの親の元に生まれるかは佛様が因縁に因って決められるそうです。人間の誕生は人生のバラ色であり、家門の繁栄を目出度く祝う為に紅白の餅を供えます。

交通ルールには信号機があり、赤で止まる様に決められています。我々の家庭にも緊急事態を知らせてくれる信号があればと思います。あるとするならばそれは佛、菩薩への帰依、信仰であると思います。信仰によって大難は小難に、小難は無難にと守護されるのです。人の一生は白で結ばれ、赤で生まれ、黒で送られて往きます。人生最後は黄色です。黄色で坊主が頭に浮かべるのは黄泉です。黄泉の国と言ひ冥土の事です。ですから黄泉の旅に出れば一生の終焉です。聖人であろうと無かろうと、死後は先祖の一人として名を連ねて行く事に成ります。

善壽界油掛地藏尊